

## 認証評価報告書刊行にあたって

本学は、大学基準協会の認証評価において、2007(H19)年度に「適合」と認定された。本報告書は、この認証評価等の過程において大学基準協会に提出したものである。振り返れば、齊藤皓彦前学長の下で、2004(H16)年度から自己点検・評価に取り組み始め、報告書作成に関しては、複数の新たな組織を編成し、既存の委員会等と有機的な協力が可能となる体制を整え準備作成するという長い道程であった。

本報告書のキーワードは、「つながり」である。この「つながり」という語は、聖書を基にした福岡女学院の聖句「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」による。その「つながり」は、神と人間に発し、人と学問、社会と本学、本学と教職員・学生、教職員と学生、卒業生と在學生など、様々な次元や場面において尊重され、本学の基盤となるものである。本学が認証評価において「適合」とされたのは、全体的に見て評価基準に達していたとともに、「つながり」を重視するなどのキリスト教に基づく建学の精神によって教育を行っていることも評価されたのではないかと考える。

評価結果においては、国際的な教育研究交流および社会貢献が、長所として特記すべき事項として取り上げられた。総評においても、教育研究組織、カリキュラム、学生生活支援、教員組織等、様々な点において高い評価を得た。今後も、これらの「つながり」を基盤とする活動を継続かつ伸張していきたい。一方、教育方法等に関する2点および編入学定員について助言を受けた。また、建学の精神と各学部の教育目標の関連が曖昧である他、幾つかの指摘もなされた。今後、これらの助言および指摘に真摯に対応し、短期計画・中期計画策定などの中で、改善に向けた具体的な取り組みを行っていく所存である。

認証評価等に関する作業は、本学が第三者から大学として適合という評価を得ること以上に、ともすれば日常に流され怠りがちとなる、点検・評価および改善策の検討に邁進するという成果をもたらした。本報告書は、その過程で生まれた副産物である。とはいえ、これだけの内容を文書化し、報告書として作成するには多大な労力が必要であった。諸般の事情から、関係委員会等のメンバーの一部が途中交代するなどの紆余曲折を経ながらも、担当した教職員の献身的な尽力により、報告書の刊行に至ったことは感慨深いものがある。関係各位に謝意を表したい。

最後に、本学の報告書作成にあたっては適切な御助言や御指導を、また認証評価機関としては厳正かつ公正な評価をくださった大学基準協会にも感謝の意を表するものである。

2008(H20)年3月

学長 古川 照美